

令和 8 年度第 1 回静岡市文化振興審議会 議事録

日時:令和 8 年 6 月 26 日(金)14:00~16:30

会場:静岡市上下水道局庁舎 7 階 71 会議室

出席者:【委員】

海野俊彦委員、遠藤次朗委員、坂口裕昭委員、佐々木雅幸委員、田中豊稲委員、
成島洋子委員、久野貴子委員、平野雅彦委員、宮城嶋開人委員、山内真一委員

【事務局(文化政策課)】

相羽課長、多々良文化事業推進担当課長、

文化振興係 石川係長、浅倉主査、丸山主任主事、松井主事、

まちは劇場推進係 小島係長、文化事業推進係 柴川係長、施設係 野末係長、

芹沢銈介美術館 三浦参事兼館長

【オブザーバー】

(公財)静岡市文化振興財団:星野課長、磯合主事

【議題】

(1)第2期静岡市文化振興計画 令和7年度事業実施評価について

(2)第3期静岡市文化振興計画の骨子案について

(3)文化に関する市民意識調査の実施について

【報告】

(1)静岡市民文化会館再整備事業について

【記録】

	内容	
14:00	開会 課長挨拶	多々良担当課長 相羽課長
14:05	・委嘱状の交付 ・委員自己紹介 ・会長・副会長選出 委員の互選により、会長に平野委員、副会長に佐々木委員を選出 ・会長・副会長挨拶	多々良担当課長
14:30	議事録署名人に平野会長、遠藤委員を選任 【議題1】 第 2 期静岡市文化振興計画 令和7年度事業実施評価について <u>資料説明</u> 資料 1 第 3 期文化振興計画策定スケジュール 資料 2 第 2 期文化振興計画 令和7年度事業評価 資料 3 第 2 期文化振興計画 総括評価	平野会長 浅倉主査

資料8 事前提供意見一覧 第2期計画の評価及び課題から第3期計画の方向性を検討する。 審議 ・事業を今後も継続していくためには財源の確保が重要である。文化振興事業の財源はどのように確保しているのか。 ・財源は市の一般財源が中心である。一部事業では国庫補助金等も活用しているが、基本的には市の財源により実施している。 ・行政の一般財源だけに依存するのではなく、民間企業が資金を出したくなるような社会的インパクトや成果を示す必要がある。 ・自身は委託事業、自主事業、ボランティア活動の三つの形態で事業に関わっている。いずれの形態でも、財源確保と継続的な運営が大きな課題である。 ・来場者数や参加者数だけではなく、事業を支える運営スタッフやボランティアの継続的な参加も重要である。事業を重ねる中で参加者や担い手が増え、世代交代が進んでいくことも評価すべきである。 ・単に事業を実施するだけでなく、ファンやリピーターが生まれる循環をつくることが重要である。地域の文化的基盤を育てる視点が重要である。 ・自分が出したお金がどう生かされているか解像度が高く伝えられることが大切。 ・少人数だから価値が低い、多人数だから価値が高いというものではない。 ・全てを均等に支援するのではなく、重点的に支援する分野があってもよい。 ・最初に財源について質問したのは、文化政策の持続可能性を考える上で最も重要だからである。 ・少子高齢化や趣味・娯楽の多様化により、文化・スポーツを取り巻く環境は大きく変化している。スポーツ分野では既に自主財源確保が大きな課題となっている。「良いことをしているから支援してほしい」だけでは持続しない。 ・自主財源をどう構築するかは今後の文化政策の大きなテーマになる。 ・一つ一つの文化でなく、文化全体のムーブメントをいかに起こすかが大切。 ・障害者施設や病院でアート事業を実施しているが、現場には予算がほとんどない。財団助成や行政からの委託で事業を実施している。事業を継続したいという思いがあっても実現が難しい。 ・本来は地域企業と連携しながら継続的な仕組みを作りたいが、そのための場や仕組みが不足している。 ・文化事業についても「なぜ必要なのか」「どのような社会的価値があるのか」を分かりやすく説明する必要がある。 ・文化の価値を言語化し、社会と共有していくことが重要である。 ・清水区のナショナルトレーニングセンターを例に、施設単体ではなくエリア全体でストーリーを構築している。ストーリーと根拠を示すことで、民間事業者や企業が参画しやすくなる。 ・第3期計画に向けては、来場者数等のアウトプットだけでなく、行動変容、社会への	坂口委員 小島係長 坂口委員 山内委員 宮城嶋委員 海野委員 坂口委員 久野委員 遠藤委員 宮城嶋委員 平野会長 坂口委員 平野会長
--	---

	波及効果、担い手や民間の関与などを評価する視点が必要である。 ・文化振興が市全体の課題解決にどの程度寄与しているのかを示す視点が必要である。評価した成果を再利用し、市民や関係者が活用できる仕組みも必要である。 ・単なる来場者数よりも継続参加者の存在に注目すべきである。 ・文化は短期間で成果が出るものではなく、単年度ではなく長期的な視点で評価する必要がある。今後は組織同士だけでなく、市民や民間事業者、参加者が企画側へ関わる仕組みづくりが重要である。 ・本日の意見を踏まえて会長・副会長と事務局で整理し、報告する。	山内委員 平野会長
15:15	【議題2】 第3期静岡市文化振興計画の骨子案について 資料説明 資料5 第3期計画策定の経緯と方針 資料6 第3期計画 基本方針 審議 ・事務局案には全体として賛成である。 ・国でもスポーツ・観光・文化の連携が重視されている。 ・人々は身体的な充足だけでなく、知的好奇心や社会との関わり、人とのつながりを求めている。 ・「次世代」は若者だけを指すのではなく、60代、70代、80代で新たな活動に挑戦する人も含めて考えるべきである。 ・第3期計画の目玉は基本方針2であり、その点が非常によく整理されている。特に「地域経済」と「分野横断」という2つの視点が重要である。 ・スポーツビジネスの事例を踏まえ、スポンサー収入だけに依存せず、チケット収入、飲食収入、地域連携事業など多様な収入源を持つことが重要である。 ・財源には、国・自治体の補助金、民間投資、自主事業収入の段階があり、最終的には自主事業によって自立できることが理想である。 ・「越後妻有 大地の芸術祭」は3年に一度の開催だが、その間の2年間も自主事業を行っている。文化と経済は相反するものではなく、両立可能である。 ・静岡市においても、一時的なイベントではなく、地域に根付く仕組みづくりが重要である。 ・国が博物館に収益化を求める流れに対し、現場には抵抗感もある。 ・美術館は一定のビジネスモデルを構築してきた。開館当初から民間投資を活用する仕組みを導入した。マスコミや民間企業と共同で展覧会を企画し、収益を分配する方式を採用した。全ての展覧会が黒字になるわけではないが、年間数本の成功事例があれば成り立つ。 ・静岡市美術館は早くから科学館や音楽館との連携など分野横断的な取組を進めてきた。収益だけでなく、利用が少なくても重要な文化資源を守る視点も必要で	浅倉主査 山内委員 坂口委員 平野会長 田中委員 平野会長

	ある。 ・劇場分野では、人材育成というとプロ人材の養成を意味する場合もある。 ・文化への理解と経営的視点を併せ持つ人材も重要であり、KPI として想定する人材像を明確にする必要がある。 ・市民や企業がそれぞれの立場で参画し、責任と成果を共有できる仕組みを目指している。そのような意味で人材育成という言葉を用いている。 ・「文化」という言葉が非常に広く、人によってイメージが異なる。 ・一方で、収益化できる文化活動は全体の一部に過ぎない。計画全体が文化のあらゆる領域を対象にしようとしているため、苦しさも感じる。 ・文化による地域活性化の方向性には賛成だが、「静岡市にとって文化とは何か」という整理が必要ではないか。 ・静岡市の文化政策は国の文化政策とは異なり、市民に近い視点が重要である。 ・計画案にある「誰もが文化によって豊かで幸せな生活を送れるまち」が重要な考え方である。 ・文化政策では、文化的価値、経済的価値、社会的価値の3つの価値のバランスを取ることが重要である。 ・基本方針に新たな視点を追加する提案について、大きな反対意見はなかった。 ・今後は、地域経済、分野横断、人材育成、文化・経済・社会の価値の両立といった視点を取り入れながら、計画見直し及び条例改正につなげていく方向で進めたい。	成島委員 相羽課長 海野委員 佐々木副会長 平野会長
15:55	【議題3】 文化に関する市民意識調査の実施について 資料説明 資料7 静岡市の文化に関する市民意識調査 第2期の効果検証及び第3期の基本方針に沿った KPI を設定するため意識調査を実施する 審議 ・住民票は市外にあって、通勤・通学など生活の中心が静岡市にある人もいる。 ・静岡市民だけでなく、市外在住者から見た静岡市の文化に対する意見や評価も参考になるのではないか。 ・イベント開催時のアンケートに今回の調査に関連する設問を盛り込むことは可能である。委員の意見も踏まえながら検討していきたい。 ・設問 1-1「あなたが思う文化の範囲について」という聞き方には違和感がある。回答者は、提示された項目について「これは文化か、文化ではないか」を判断することになり、調査側の誘導が入っているように感じる。 ・設問 2 の「文化活動について」という表現も分かりにくい。文化に詳しくない市民からすると、「文化活動」という言葉から専門的・高尚な活動を想像してしまう。 ・「普段の生活の中で体験している文化」や「鑑賞している文化」という聞き方の方	浅倉主査 久野委員 事務局 山内委員

	が、市民には答えやすいのではないか。 ・設問 16「今後の静岡市の文化の取り組みについて」も何を尋ねているのか分かりにくい。文化を広げたいのか、体験機会を増やしたいのかなど、目的や方向性が見えない。 ・今回提示した調査票は、令和3年度に実施したアンケートを基本的にそのまま示したものである。その後、社会情勢や文化に対する価値観は大きく変化している。委員からの意見も踏まえ、設問項目や用語の見直しを行いたい。 ・これまでの議論で出てきた「文化をどのように捉えるか」という考え方についても整理したい。どこまで広い概念として文化を扱うのかも含め、設問や表現を精査していきたい。 ・現時点ではまだ検討途中の段階であり、委員の意見を踏まえて見直しを行うという理解でよい。 ・その認識で問題ない。委員の意見を反映しながら調査票を見直していきたい。	平野会長 事務局
16:20	【報告】 (1)静岡市民文化会館 再整備事業進捗について 資料説明 ・再整備のスケジュールについて ・工事事業所の決定の報告	野末係長
16:30	事務連絡 閉会	多々良担当課長

署名(会長) 平野 雅彦

署名(委員) 遠藤 次郎